

議会の



3月定例会

平成29年第1回鶴田町議会定例会が、3月2日から9日までの会期8日間で開かれました。

今定例会では、議案26件について審議が行われ、原案どおり議決（可決20件、承認2件、同意3件、一部採択1件）されました。

議決された議案

- 議案第1号 平成29年度鶴田町一般会計予算案
- 議案第2号 平成29年度鶴田町国民健康保険特別会計予算案
- 議案第3号 平成29年度鶴田町水道事業会計予算案
- 議案第4号 平成29年度鶴田町下水道事業会計予算案
- 議案第5号 平成29年度鶴田町学校給食特別会計予算案
- 議案第6号 平成29年度鶴田町第1財産区特別会計予算案
- 議案第7号 平成29年度鶴田町第2財産区特別会計予算案
- 議案第8号 平成29年度鶴田町介護保険特別会計予算案
- 議案第9号 平成29年度鶴田町後期高齢者医療特別会計予算案
- 議案第10号 平成28年度鶴田町一般会計補正予算（第5号）案
- 議案第11号 鶴田町個人情報保護条例の一部を改正する条例案
- 議案第12号 鶴田町農業委員会委員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第13号 鶴田町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第14号 鶴田町職員の給与天引に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第15号 鶴田町町税条例等の一部を改正する条例案
- 議案第16号 鶴田町道路法施行条例の一部を改正する条例案
- 議案第17号 鶴田町ふれあいセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案
- 議案第18号 専決第7号 鶴田町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 専決第8号 鶴田町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 鶴田町の公の施設の指定管理者の指定について
- 議案第21号 青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村総合事務組合規約の変更について
- 議案第22号 西北五環境整備事務組合規約の変更について
- 議案第23号 鶴田町教育委員会委員の任命について
- 議案第24号 鶴田町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 議案第25号 人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて
- 請願第1号 みどり町への融雪溝の設置及び集会所の増改築を求める請願

一般質問

3月定例会一般質問の
要旨をお知らせします

花田 正逸 議員

所属会派 政和会

①鶴田町の今後の観光 キャンペーンについて

昨年7月1日よりJR鶴田駅と鶴の舞橋間のタクシー、バス移動料金の補助を実施しましたが、平成29年度も実施する予定があるのかお伺いします。

②鶴田町農村環境改善 センター（豊明館） の一部改修について

築35年もなり、特にホールの電球が暗く暖房設備が弱いので、一部改修し整備する必要があると思いますが、いかがでしょうか。

③統合小学校の建設 について

1）屋内運動場について、さまざま

まな大会ができる屋内運動場にしていただきたいが、いかがでしょうか。

2）統合小学校の名称、校歌、校章はどのようになるのか、お伺いします。

3）統合小学校建設に地元企業者にも参加させていただきたいが、いかがでしょうか。

答弁 町長

昨年の3月末に北海道新幹線が新青森駅から新函館北斗駅まで開業したことから、7月1日から9月30日までの期間、青森県・函館デスティネーションキャンペーンが展開されました。期間中には、青森県と道南の市町村や関係団体がそれぞれにイベントや観光キャンペーンを企画・実施されており、

町では以前から陸奥鶴田駅から富士見湖までの公共交通がとても不便であるとの指摘が多々ありましたことから、2次交通の確保として、観光客に対するタクシー料金の補助や連絡バスの運行を行いました。

なお、2次交通の取り組みについては、女優の吉永小百合さんが出演するJR東日本の「大人の休日倶楽部」のテレビコマーシャルに、鶴の舞橋が採用されたテレビ放映やポスターなどで広く宣伝されたことから、大人の休日倶楽部会員が自由に乗り降りできる「大人の休日倶楽部バス」の期間中にも実施しております。

平成29年度につきましては、青森県・函館デスティネーションキャンペーンが今年度と同じ7月1日から9月30日までの期間に予定されておりますので、この期間中につきま

しては、観光客に対するタクシー料金の補助を実施してまいりたいと考えており、平成29年度当初予算案に計上しております。

連絡バスにつきましては、1日5往復、延べ75日の運行を行いました。したが、利用者数の実績が思わしくなかったことから、平成29年度につきましては運行しないことといたしました。

次に、鶴田町農村環境改善センター「豊明館」の一部改修についてであります。ご指摘のとおり、特に多目的ホールの照明につきましては、会議の際に資料の文字が見えづらいとのご指摘があり、また、暖房につきましては機能の低下がみられることから、寒いとの声が聞かれるなど、利用者にはご不便をお掛けしたことを思います。そのため、照明につきましては、多目的ホールとエントランスの区域についてLED照明器具へ



△会議やイベント等で多く使用される豊明館の多目的ホール

の更新を、また暖房につきましては温風暖房機8台の設置を平成29年度当初予算案に計上しており、利用者の利便性の向上を図ってまいりたいと考えております。

最後に、統合小学校建設工事への地元企業者の参加についてですが、私は町長に就任して以来、地元企業の育成に對しましては、積極的に取り組んでまいりました。

統合小学校の建設事業につきましては、さまざまな業種での発注が見込まれることから、地元企業の活用ならびに受注機会の確保に努めてまいりたいと考えております。

答弁II教育長

統合小学校の屋内運動場につきましては、ミニバスケットボールコート2面で使用できるように検討しております。また、他の競技についても使用できるように、床に色違いでラインを表示することを検討しております。さらに、試合を観るためのスペースについても検討してまいりたいと考えております。

次に、統合小学校の校歌・校章につきましては、仮称ではありませんが、統合小学校準備委員会を設置し、その中で校歌・校章等検討部会を設置する必要があると考えております。

校歌につきましては、歌詞に入りたい言葉やフレーズは募集するのか、専門家に依頼するのか、曲は作曲家に依頼するのかなど、さまざまな検討が必要となります。また、校章につきましてはデザインを募集するのであれば、どのように行うのか、専門家に依頼するのかなど、これにつきましても検討が必要となります。さらに、学校名、校旗など協議していくべき項目

がたくさん想定されますので、できるだけ早い時期から準備委員会や検討部会等を設置し、統合小学校の開校に着実に間に合うよう取り組んでまいります。

加賀谷忠榮 議員

所属会派 政優会

① 統合小学校の開校に向けたコンセプトならびにタイムテーブルについて伺いたい

ハードについては、着工に向けて着々と準備が進んでいるが、開校に向けてソフト面について、次のとおり伺います。

- 1) 6校それぞれに歴史や特色がある学校が一つにまとまり新しい学校が誕生するが、新学校のコンセプトはどのように作り上げるのか。
- 2) ソフト面でのタイムテーブルは、どのように進めるのか。
- 3) コンセプトに沿った人材集めについてどう考えるか。
- 4) 部活動の考え方をどのようにするの。

答弁II教育長

まず、新学校のコンセプトはどのように作り上げるのかというご質問にお答えいたします。

管内各小学校にはさまざまな歴史があり、それぞれに特色のある活動が行われてきました。このたび、小学校6校が1校に統合されることから、それぞれの学校や地域に愛着を持つ皆さまからさまざまなご意見やご要望が出てくることが想定されます。

基本的な考え方となるコンセプトを策定するにあたりましては、各小学校や地域の関係者等による、仮称ではありますが、「統合小学校準備委員会」を設置し、その中でさまざまな意見を出し合いながらコンセプトを策定してまいりたいと考えております。

また、ソフト面でのタイムテーブルにつきましては、まず、新しい統合小学校の校名についてどのように決定するのか、校歌、校章、校旗等をどの時期にどのように決定するのか等のタイムテーブルをできるだけ早い時期に作りたいたと考えております。

次に、コンセプトに沿った人材集めについてでございますが、これまで私が培ってきた経験と人脈を基に、統合小学校に十分に生かしていけるよう、誠心誠意励んでまいりますので、よろしくお願いたします。

最後に、部活動についてでございますが、現在スポーツ関係では、野球部、陸上部、卓球部が活動しています。児童数の減少により、何校かの子どもたちが一緒になって、スポーツ少年団として行っている競技もあります。小学校では、本来、先生方が部活動をしなければならぬということにはなつて

おりません。先生方のご厚意により、子どもたちへの指導をしてくださっている状況でございます。先生方には、いつも深く感謝しております。現在、先生方のご協力なくしては、部活動を継続することは非常に難しい状況ですが、今後は、スポーツクラブやスポーツ少年団等との連携・協力についても検討を進めてまいります。

蒔苗 愛子 議員

所属会派 政優会

① 食品ロス解消について

- 1) 食品ロスを少なくする方法として、町で取り上げていることは何か伺いたい。
- 2) 「3010運動」について、当町も「3010運動」を積極的に推進してはどうか。

② 地域消防団について

- 1) 各地区にある消防団員の現状(人数、補償、装備等)は、どのようになっているのか伺いたい。
- 2) 婦人防火クラブ員の加入現状は、どのようになっているのかを伺いたい。
- 3) 今後、消防団員、婦人防火ク

ラブ員数の確保についての取り組みについて伺いたい。

③町の施設のトイレに関するについて

1) 高齢者、障がい者にとって利用しやすいトイレの設置を望む声があることについて、町施設のトイレの洋式化の現状について伺いたい。

2) 国際交流会館は、さまざまな行事、会議等での利用が多く、洋式トイレが不足しているとの声が多い。その声を受けて、国際交流会館のトイレを洋式に改修してはどうかと思うが、町としての考えを伺いたい。

④町のゆるキャラ「つるりん」の活用について

1) 町の観光、農業、商業などの分野に「つるりん」のマークを取り入れた活用方法を検討してはどうか。

2) 「つるりんバッチ」をお土産に欲しいという声も聞きますが、観光グッズの中に「つるりんバッチ」を加えてはどうか。

3) 「つるりん」は町の財産であり、商標登録をして積極的に活用して行くことを考えてはどうか。

答弁 町長

はじめに、食品ロス解消についてですが、町では、一般家庭から排出される生ごみの内訳を調査



△平成 28 年 1 月に鶴田小学校で開催されたエコクッキング教室

し、食品ロスの実情を把握するとともに、さらにその調査結果を活用した周知・啓発を実施し、その後で消費者の認識や行動がどのように変化したか等の集計および分析を、平成25年度に青森県立保健大学に研究委託し、「鶴田町家庭系食品ロス実態調査事業調査報告書」として、ホームページに掲載しております。

調査結果では、食品ロスを減らすため、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量を確認する」「料理を作りすぎない」などを実行することにより、約8割の方が食品ロ

スを少なくすることが可能であると回答しております。

この事業におきましては、町民の皆さまからの「野菜くずや残りを利用した料理法のレシピを紹介してほしい」との要望にお応えして、町食生活改善推進協議会のご協力のもと、町のごみの状況、生ごみ減量のポイント、シンポジウムの内容も記載されたレシピ集もホームページに掲載して、町民の皆さまの食品ロス解消に役立てていただいております。

3010（さんまるいちまる）減らす運動としては、食品ロスを減らす運動として全国的にも広がりをを見せており、町としても、会食等での食べ残しを減らすため、各種団体や町民の皆さまにも協力をお願いしたい。味、タイム30分、食ベきりタイム10分の3010（さんまるいちまる）運動を実践していきたいと思います。

次に、地域消防団についてのご質問ですが、町消防団は、現在、1本部、15分団、定数3000人で組織されて

います。地域住民のご理解と幹部団員の努力により、3月1日現在で実員数は294人で、定数に対する充足率は98・0パーセントでございます。青森県内の消防団の状況は、定数2万1392人に対して、実員数1万9131人で、充足率89・4パーセントですので、町消防団はかなり充足していることがわかります。

最近の取り組みとしては、平成28年4月1日に機能別消防団員制度を導入しました。消防団のOB等を再入団させ、平日の昼間の火災や大規模災害などに限定し、消防活動の支援を行う「支援団員」を設けました。通常の消防団員と同様に、公務災害補償などが受けられます。この制度導入により、20人の元幹部団員に再入団していただいております。

東日本大震災において、多数の消防団員が犠牲となったことを踏まえ、消防団員の安全確保のための装備を充実するよう消防団の装備の基準が改正されたことから、町消防団においても、防火服の更新、ヘルメット、ライフジャケットの貸与、そして平成29年度当初予算案には、消防団員全員に安全靴を貸与するための予算を計上させていただいております。消防団員が安全に災害活動を行うため、今後も引き続き整備していきたいと考えております。

次に、婦人防火クラブについてですが、婦人防火クラブは、昭和62年に鶴田地区・水元地区・六郷梅沢地区に発足しました。その後、平成19年5月に各地区の婦人防火

クラブが統合して、現在の鶴田町婦人防火クラブ連合会が発足しております。現状の加入人員は31人であり、町の防災・減災のために頑張っていたいております。

消防団員・婦人防火クラブ員がそれぞれの地域に根差し、地域住民との絆を深くし活動をしていることなどから、今後も、顔の見える地域との関係を基に、団員・クラブ員の自らの声掛けによる入団勧誘や、ポスターあるいは広報紙やホームページ等の活用、学校と連携しての子供たちへの防災教育など、さまざまな取り組みをしながら、消防団員・婦人防火クラブ員の確保に務めてまいりたいと考えております。

次に、町施設のトイレについてですが、役場庁舎や小中学校、ふれあいセンターなど、公共施設のトイレの洋式化率は全体で41・4%となっております。

主なところでは、役場庁舎が16・7%、国際交流会館は22・2%、豊明館は33・3%、公民館は83・3%、鶴遊館は83・0%となっております。また、小中学校の洋式化率は34・8%となっており、県平均の37・3%よりもわずかに下回っております。

また、車いす等でも使えるトイレは、役場庁舎に2か所、国際交流会館に1か所、豊明館に1か所、公民館に2か所、鶴遊館に5か所設置しており、全施設で28か所設置してあります。

学校のトイレにつきましては、洋式を使い慣れた子どもたちがトイレを我慢することもあるなどの



△現在販売されているつるりんグッズ

指摘もあります。また、災害時に避難場所となる公共施設は、避難する高齢者や障害者が利用しやすいトイレが必要とされております。

そのため、新年度では、国際交流会館1階の女子トイレ3か所を洋式化する計画で予算を計上しており、豊明館につきましても、2階のトイレを男女1か所ずつ洋式化するための予算を計上しております。今後新設する場合はもちろんですが、既存の施設につきましても洋式化への改修を検討してまいります。

最後に、「つるりん」のマークの活用方法についてですが、町では『鶴田町マスコットキャラクター

「つるりん」の使用に関する要綱』を制定して、この要綱に基づいて「つるりん」の使用基準を定めております。

現在、町では広報誌やホームページ、観光パンフレット、各種チラシ、PRグッズなどに、「つるりん」のマークを活用しております。なお、町内の事業者や団体等においても積極的に活用していただきたいところですが、現状では使用申請があったのは9件となっております。

今後も町のマスコットキャラクター「つるりん」の活用方法について、さまざまな角度から検討し、積極的に活用してまいりたいと考えております。

次に「つるりんバッジ」についてですが、現在「つるりんバッジ」は缶バッジが2種類とピンバッジが1種類の全部で3種類のデザインがあります。これは、いずれも助成金を活用して製作したものであるため、販売はできないものとなっております。このため、これまでに製作した鉛筆やボールペン、タオルなどと同様に町が主催する各種イベント等での参加記念グッズとして活用して

おります。

今年度は、販売用グッズとしてラバーキーホルダー、ぬいぐるみミニマスコット、ノートブックの3種類を製作し、道の駅つるた「鶴の里あるじや」および富士見湖パーク売店において販売しております。販売目的とするには自主財源で製作する必要があるため、「つるりんバッジ」につきましては、販売状況等を踏まえて検討してまいります。

次に「つるりん」の商標登録についてですが、商標登録は商品やサービスに付ける「マーク」や「ネーミング」を財産として守る知的財産権で、商標登録されると、権利者は登録商標を独占的に使用できるようになります。また、第三者が類似する商標を使用することなどを排除することができます。

登録商標はマークとそのマークを使用する商品の組合せで一つの権利となっており、その商品の区分は45種類あり、1つの区分に対する申請には手数料と登録料を合わせて4万2100円必要になります。つるりんのマークの利用可能性を考えますと多岐にわたると考えられますが、想定される区分全てで商標登録を取得すると経費がかさむことから、現在のところ実際に使用されている、菓子類を含む一つの区分について登録を申請中であります。

今後の登録につきましては、町内の事業者や団体等のニーズを踏まえて、必要となる区分での登録を検討してまいります。

小関 優 議員

所属会派 政優会

① 鶴田町出身者の Uターン対策について

就職や進学により、町外へ転出した方々に再び鶴田町に戻ってきて住んでいただくための対策として、どのようなことを行っているのかお知らせください。

② 町の活性化について

新しい発想や若い力などを取り入れ、町を活性化しようと、平成27年3月に「地域おこし協力隊」の活用を提言させていただきました。しかし、鶴田町では、まだ募集していないようです。

では、どのような方法で、町を活性化させようと考えているのかお知らせください。

③ 将来の町議会議員の なり手について

地方議員のなり手不足が深刻化していると報道されています。町議会議員は住民全体の代表者として、町の意思を決定する重大な職責があります。そのため、わが町でも将来、なり手不足が起きない

よう、今から子どもたちに町議会議員の役目などを深く理解してもらうことが必要であると考えますが、いかがでしょうか。

④ 町の教育についての思い

教育長は町の教育についてどのようにしたいと考えているのか。また、その思いを達成するため、平成29年度はどのようなことを行っているのかお知らせください。

⑤ 小学校統合後における サンシャインスクール (学童保育) バスの運行 について

サンシャインスクール検討委員会は小学校統合後、統合小学校にサンシャインスクールを集約することを教育委員会に答申しました。また、その中でサンシャインスクールバスの運行が要望されました。要望どおり、サンシャインスクールバスを運行する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

⑥ 廃校の活用について

サンシャインスクールを統合小学校1校に集約することが答申されました。廃校となった学校はど

のように活用する予定かお知らせください。

答弁Ⅱ町長

はじめに、町出身者のＵターン対策についてですが、人口減少対策に取り組む指針となる「鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、移住者向けの積極的な情報発信や相談体制に取り組むこととしております。

町では、各種移住定住関連のセミナーに参加して情報収集に努めており、昨年12月には、あおもり移住・交流推進協議会が主催して東京交通会館で実施された「青森暮らしセミナー」に参加し、町をPRする移住トークや個別相談会を行っております。Ｕターン対策、移住定住対策にとって重要なことは生活基盤の充実であると考えております。そのため、基幹産業である農業の振興、子育て支援、社会福祉の充実など、魅力あるまちづくりを進めてまいります。

最後に、町の活性化についてですが、町ではこれまで第5次鶴田町総合計画「わの町ふるさとみらい計画」に基づき、基本目標である「健康で共に支え合う住みよいまちづくり」を目指し、まちづくりの柱である「健やかで安心な暮らしを支えるまちづくり」、「活力ある住みよいまちづくり」、「健康で郷土を愛する人間性豊かな人づくり」、「共に支え合う安心なまちづくり」、「町民と共につくる親しみやすいまちづくり」に向かって各種施策を実施してまいりました。

さらには、昨年度策定した「鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」にのっとり、「産業の充実による活力あるまちづくり」、「生活基盤の充実による誰もが住みたくなるまちづくり」、「健やかで安心な暮らしを紡ぐ次世代育成のまちづくり」、「早寝早起き朝ごはん、健康長寿のまちづくり」の4つの政策分野で各種施策を実施しております。

平成29年度は、所信表明で述べたとおり、地方創生拠点整備交付金を活用した『道の駅つるた』の鶴の里あるじや」を核としたスチューベンぶどうブランド化推進事業やスチューベンぶどう販路拡大事業などにより、農業の活性化に努め、観光情報を発信し、誘客を図る観光プロモーション事業やインバウンド需要に対応したエコウィワイ環境整備事業、観光ガイド配置事業などにより観光産業の活性化に努め、「産業の充実による活力あるまちづくり」を目指してまいります。

また、乳幼児や小学生の医療費無料化、保育料の軽減事業、児童育成支援金の交付などの子育て支援対策を進めることで、生活環境の充実を図り、「健やかで安心な暮らしを紡ぐ次世代育成のまちづくり」を目指してまいります。

これらの施策を着実に実現していくことで、町全体の活性化につながっていくものと考えております。

答弁Ⅲ教育長

まず、地方議員のなり手不足が

深刻化しているため、わが町でも今から子どもたちに町議会議員の役目などを理解してもらうことが必要であるということについてお答えいたします。

議会議員は、住民を代表する者として、地域のことや住民福祉の向上等に努めることが主な役割です。最近の全国的な傾向としては、議員に立候補する住民が少なくなってきたようなのですが、今後、さまざまな機会を活用して子どもたちに理解してもらうことは、将来に向けて必要なことであると考えております。

平成26年度には、鶴田中学校3年生36人が、社会科学習の一環として町の議会を傍聴いたしました。また、班に分かれて町に対する提案を考え、この議場におきまして、病気の早期発見による健康長寿を目指す「健診・病院・お早めに条例」をはじめ、「鶴田の魅力発信条例」や「スチューベンプロジェクト条例」などを披露していただきました。このような経験が、地方議員のなり手不足解消につながっていくことと思っております。

次に、鶴田町の教育についてお答えいたします。

私は、当たり前前のことが当たり前に出来る教育をしたいと思います。学校教育では、小学校から、大きな声で返事が出来る、あいさつが出来る、相手を思いやること出来る等。そして、賞状をもらう時、卒業する時等に感謝の言葉をきちんと伝える子どもになつてもらいたいのです。非常に小さなことと思われませんが、日常生活をしていく上で当たり

△鶴田中学校の生徒の提案に答弁する相川町長

前のことなのです。昨今のテレビや新聞で、人を傷つけるというニュースが連日のように報道されています。これは、自分の感情のままに行動しているからです。本を正せば、当たり前前のことを当たり前に出来ていないからなのです。そのことを身につけた子どもたちが社会に出て、大人になっていけば家庭教育、ひいては社会教育にもつながっていくと思っております。

平成29年度も、授業においては、一人ひとりの児童生徒に対して「わかる授業づくり」を、生徒指導においては、一人ひとりを大切にした「学年経営」「学級経営」を進めてまいります。そのために学校教育支援員の配置、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を図ってまいります。

次に、サンシャインスクールに通うためのバスについてお答えいたします。

教育委員会では、「サンシャインスクール検討委員会」を設置し、関係者等へのアンケートを実施するなど検討を重ねてきたところですが、その結果が平成29年2月16日に答申されました。この答申ならびに直近の教育環境などを勘案し、児童の安全確保を第一に考え、教育委員会としては「統合後におけるサンシャインスクールの配置については集約型が適切である」との結論を得ました。

土曜日および長期休業における児童の送迎につきましては、さまざまなケースを想定して送迎バス

鶴田町固定資産評価 審査委員会委員 に

秋庭 隆 氏を選任



3月議会定例会において同意された秋庭隆さん（木筒）が鶴田町固定資産評価審査委員会委員に平成29年4月1日付けで選任されました。

任期は平成32年3月31日までの3年間です。

鶴田町 教育委員会委員 に 木村 繁子 氏を選任



3月議会定例会において同意された木村繁子さん（境）が鶴田町教育委員会委員に平成29年4月10日付けで選任されました。

任期は平成33年4月9日までの4年間です。

の有無を検討する必要があると思います。

最後に、廃校の活用についてお答えいたします。

平成16年3月に閉校した旧水元小学校につきましては、ヒバ造りの趣あるたたずまいで、NHKのドラマ「いのち」のロケ舞台にもなったことから、翌年に町文化財に指定し、鶴田町歴史文化伝承館として活用しております。

また、同時期に閉校した旧妙堂崎小学校につきましては、町の普通財産として管理し、貸し付けしております。

今後、県内外の事例を参考にするとともに、鶴田町にとつてどのような活用の仕方が良いのかを、町民の方々からのご意見を参考にさせていただきながら、よりよい方策を見いだしていきたいと考えております。

北谷 正則 議員

所属会派 誠志会

① 地方創生拠点整備 交付金について

1) 交付金の全額を道の駅つるた鶴の里あるじやの建設事業費として使用するのはいかがか。

2) 交付金の一部を利用し、鶴の舞橋に「鶴の里あるじや」専用の売店をオープンしたらいかがか。

3) 本町活性化のため、交付金の一部を利用し、年何回か役場駐車場あるいは駅前駐車場で還元セールを行ったらどうか。

答弁 町長

国の第2次補正予算で計上された地方創生拠点整備交付金は、地

方版総合戦略に基づく自主的・主体的な地域拠点づくりなどの事業について、地方の事情を尊重しながら施設整備等の取り組みを進めることを目的として創設されたもので、未来への投資という経済対策の趣旨に重点を置きつつ、ローカルアベノミクス、地方への人材環流、小さな拠点形成などに資する緊急性の高い施設整備が対象となっております。

この交付金による施設整備は、未来への投資の基盤につながる先導的なものでなければならず、整備する施設は運営戦略や事業計画に基づき、利活用方策が明確にされ、それにより十分な地方創生への波及効果の発現を期待できるものが対象とされています。さらに、整備する施設は、利活用にかかる適切かつ具体的なKPI重要業績評価の設定およびPDCAサイクルを備えている必要があります。そのため、町では「道の駅つる

た鶴の里あるじや」を核としたストーリーベンどうブランド化推進事業」として、道の駅つるたの増築、CAS冷凍庫の設置、大豆・米加工施設の増築事業を申請し、7577万7千円の交付決定を受けております。

この事業を実施することにより、お土産品の賞味期限の延長による廃棄ロスの減少、新商品の開発、集客効果等を見込み、目標である重要業績評価指標いわゆるKPIを、販売額の4500万円増加、町内産の原材料の購入量の1万キログラム増加、新商品の開発数を15個と設定しております。この目標が達成されることで、農家所得の向上、観光客の増加、販路拡大、雇用の確保につながるものと考えております。

この交付金は、申請した事業に対する交付金であり、申請内容と異なった使い道はできませんので、富士見湖パークへの売店の設



置や本町活性化のための役場駐車場や駅前駐車場での還元セールにつきましては、この交付金とは別に検討していく必要があるものと考えております。